

安倍晋三内閣総理大臣殿
山口那津男公明党代表殿
高村正彦自民党副総裁殿
北側一雄公明党副代表殿

集団的自衛権の行使容認に断固反対する緊急声明

私たちは、政府与党で現在議論されている「集団的自衛権の行使容認」は再び戦争への道を開くものと考え、閣議決定を行うことに全身の怒りをこめて強く反対します。

私たちは、中国帰還者連絡会の事業と精神を引き継ぐことを目的に活動しています。同会は、中国戦線で残虐な戦争犯罪に手を染めたり、「満洲国」で熾烈非道な植民地支配を強いたりした元日本人戦犯からなります。彼らは、戦後に新中国の戦犯管理所に収容され、長い時間をかけて認罪と反省の機会を与えられたことで、帰国後に自らの体験に基づいて戦争の真実を語り、平和を実現するための行動を重ねてきました。

しかし、元戦犯たちも戦争に行くまでは、平和に暮らしていた人々でした。彼らをそんな戦争へと駆りたてた発端に遡ると、その本質が明らかになります。1945年8月15日に至る足かけ15年に及ぶあの戦争は、「満州事変」という謀略から始まっていたのです。日本が当時経営していた満鉄の線路を関東軍が自らの手で爆破し、それを中国側の仕業だとなすりつけ、「日本の生命線を守る」という目的で戦争が仕掛けられた歴史の事実を忘れてはいけません。全面戦争へと展開する契機となった「盧溝橋事変」もまた、日本軍による謀略であったことが明らかになっています。およそすべての暴力は、「相手の暴力からの自衛」という名目で行使されるのです。自衛とは戦争の異名なのです。

元戦犯たちが語ってきた具体的な加害と被害の事実を知るにつけ、戦争とは「大義」でも「聖戦」でもなく、「殺人」を頂点とする単なる人間の「破壊」であることが見えてきます。何度でも言いますが、戦争はいつの場合も「相手のせい」を理由に開始されるものです。後になって「歴史家による検証」が行われても、犠牲者は帰ってきません。「人権」と「文明」を極限的に否定する行為に手を染めた加害者も、もちろんその被害者も二度と取りかえすことのできない被害に、長く長く苦しむことになります。

中国戦線で残虐な戦争犯罪に手を染め、中国の人たちを苦しめてきた侵略戦争の事実を、心からの反省に基づいて証言し続けてきた戦争体験者の叫びを、今こそしっかりと聞きとめるべき時です。

私たちはこうした戦争と戦後の具体的真実に基づき、『過去を忘れず、後の教訓とする』という中国の至言を肝に銘じて活動してきました。憲法に規定された平和主義をかなぐり捨てるのは歴史に逆行する極めつけの愚行です。そもそも、立憲主義国家では内閣が憲法解釈を変更する資格はありません。「法治」とは憲法に則って統治することを言います。

以上から、「集団的自衛権の行使容認」を閣議決定することに、われわれは満腔の怒りをこめて断固反対します。

2014年6月22日

撫順の奇蹟を受け継ぐ会 神奈川支部
支部長 松山英司（逗子市在住）
Tel&Fax : 0468-71-4263